

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和5年度第2回さがみはら地域づくり大学運営委員会		
事務局 (担当課)	市民協働推進課 電話042-769-9225 (直通)		
開催日時	令和6年2月27日(火) 午後1時～2時30分		
開催場所	WEB 開催 (相模原市役所 第1別館1階 第2会議室)		
出席者	委員	5名 (別紙のとおり)	
	その他	1名 (指定管理者)	
	事務局	4名 (市民協働推進課長、他3人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	議 題 1 令和5年度の運営状況について (報告) 2 令和6年度の講座内容等について		

主な内容は次のとおり。

議 題

1 令和5年度の運営状況について（報告）

指定管理者及び事務局より資料に基づき説明と報告を行った。

【主な意見等】

（指定管理者）

- ・今年度は全体で56名が受講し、うち地域活動コースが17名であった。また年齢層も幅広く、若年層や中年層が増加している。
- ・受講のきっかけとしては、「施設での展示を見て」が3割で最多となっている。その他の主な理由として、過去の受講生、コーディネーターズサークルのメンバーからの紹介も3割弱に及んでおり、参加者の満足度が上昇していることが読み取れる。
- ・修了生同士の交流が活発化している。今週末にも修了生がコミュニケーションアプリである slack の講習会を企画しており、18名が参加予定である。修了生同士の交流により、新たな活動が生まれることに期待している。

（齊藤委員）

- ・年齢層に幅が出て、今まで参加が少なかった若年層や中年層が増えてきている現状は、今後の地域づくりの未来に希望が持てる結果である。今後につなげていくという視点では、コーディネーターズサークルメンバーが受講後にどのような活動をしているのかを発信していくと、受講のイメージがより分かりやすい。
- ・地域活動の実態として、短期間でできる活動がしたいという声が多く、団体には入りたがらない人が多い。短期間の活動で、色々な経験をしたいという潜在的なニーズがあると思うので、地域活動への入口として、単日のイベントのお手伝いや3日間だけのボランティア募集などを発信すると、修了生がより活動しやすくなる。
- ・中年層が増えている現状は、自身の研究としても非常に注目している。コロナ禍を経てテレワークも非常に増え、仕事以外の余暇行動の一つとしての地域活動が増えている。また、自然との関わりや、農業の手伝いなど、自然や人と触れるような活動のニーズが高まっている。やはり地域で人や自然に触れたい気持ちはこのご時世で多くの方が持つと思うので、そのニーズに合致するような戦略で、今後も受講生を増やしていってほしい。

（竹田委員）

- ・先日、市民ファンド「ゆめの芽」の応募団体のプレゼンテーションに参加したが、その場でも地域づくり大学の修了生と一緒に活動したいという発表があり、地域づく

り大学が浸透してきていると感じた。

・見学講座の藤野地区でのまち探検について、相模原市の60%は森林であることもあり林業が注目されている中で、貯木場や製材所なども見学してはどうか。自伐型林業に興味がある受講生もいるとのことなので、相模原のこれからの林業というものも見学講座で学んでいけると良い。

・市職員の講座はもっと受講生の興味を引く内容にするよう、例えば最初に聞きたい講座などを受講生に希望を聞いて、内容を調整するなど工夫しながら講座の内容を見直して頂きたい。

(水澤委員)

・ユニコムプラザに行くと毎度、地域づくり大学の展示が増えていると感じる。これは別の目的で来た方の目にも入る。今後も様々な周知に力を入れ、様々な方が参加する機会を増やしていけると良い。

・修了生が非常に活発に動き始めたことについては、成果が出ていると感じる。地域づくり大学の目的として、学んだことを地域で活かすことが最重要である。最近の情報交換や定期的な集まりなどで学んだことを還元していくような動きが見られることは、本当に大きな成果だと思う。先日もユニコムプラザ、市民活動サポートセンター、NPO 法人市民会議の3者で「NPO×企業×大学のコラボ会議」を開催し、コーディネーターズサークルメンバーがファシリテーターの補助として参加するなど、スキルの高さを改めて感じた。

・一方で、講座内に市民活動団体を周知する機会が少ない現状がある。自身も講師を務めているが、団体を紹介する機会を設けなかったのが反省点である。修了後の活躍の場の紹介は特に大切なので、取り入れていきたい。

(榎本委員)

・受講のきっかけとして、口コミの影響が大きいと感じた。そこで、受講者が地域づくり大学のことを市民に向けて発信することはできないだろうか。SNSでの周知など、ユニコムに来なくても見える発信に力を入れると、より多くの方に知っていただけれると思う。

・先日藤野地区のまちづくり会議でも河川整備の活動を行ってくれるボランティアが少ないといった話があった。例えば地域づくり大学の中で紹介して、学びと合わせてボランティア活動もやっていくなど、市内に散らばっている様々な情報をつなげて、講座に有効活用できるとよい。

(中邨委員長)

・やはり相模原市の最大の売りは自然だと思う。自然を地域づくり大学の活動に結びつけるということが、今後の発展に求められるのではないかと。

・市職員に地域づくり大学の内容の周知徹底をすることも必要である。

・この委員会でも大学生に委員になってもらい、意見を聞いてみる場を作れると良い。

(事務局)

・地域づくり大学を知ってもらいきっかけづくりとして、市職員向け掲示板に定期的に記事を書いている。また、職員が講師となり初めて知ったという事例もあるので、様々な課を呼んで、認知度を高めていきたい。

(齊藤委員)

・地域づくり大学に対して、若年層、中年層、シニア層それぞれのニーズは異なるので、それに刺さる発信の方法を考えるべきである。

若年層にとっては自分のキャリアに役に立つかである。今自分が経験していることが未来にどう役に立つかを一番気にしている。地域づくり大学を受講すると様々な職業の人との出会いがあることは若者にとっては魅力的であるため、こういった点も周知できると良い。

中年層にとってはストレス解消として何か違う自分になれる場所、自分の仕事のヒントが得られる場所としての役割や、人脈が広がるということが一つの魅力である。

シニア層になると、何かやるべきことや次のライフワークを探すニーズがある。

議 題

2 令和6年度の講座内容等について

令和6年度の講座内容案について報告及び検討を行った。

【主な意見等】

(事務局)

- ・概ねのスケジュールは令和5年と同じである。
- ・オリエンテーションは1コマ追加し、より仲間づくりに繋がるようにする。
- ・「相模原を知る」の講座では、市職員による連続での座学の講座が続き、満足度が低くなっているのでワークショップなどを含めた講座にする。
- ・9月以降のテーマ実践講座やスキル習得講座といった選択式の講座は骨子の変更や、一部講座自体を変更する。
- ・その他長く続けている講座は見直し、より興味を引けるものにする。

(指定管理者)

- ・全体的に、満足度の部分を考えて講座の内容の見直し、双方向型の講座にする。

(水澤委員)

- ・市民企画講座について、ユニコムプラザの利用団体とサポートセンターの利用団体、コーディネーターズサークルとのコラボはつながりを作るのにとっても良いと思う。
- ・自身の講座では、団体を立ち上げたいといった受講生の意見が多かったので、組織のマネジメントよりは団体を立ち上げるために必要な知識の講義が必要ではないか。

(竹田委員)

・短期的なボランティアの周知に加えて、事務局からの紹介もあると良い。例えば、桜まつりなど、毎年各地区で行われる色々なイベントの情報を収集できると良い。さらにその中で、ここは参加したいかどうかなどの意見を聞き取れるような仕組みもあったらいいのではないかな。

(齊藤委員)

・講座が7月スタートであるが、時期的に大学生にとってはレポートの提出時期に当たる。開講時期は集めたいターゲット層に合わせる必要がある。

(榎本委員)

・「相模原を知る」の講座は全て市職員が担当しているが、職員以外でもできる人はいらぬのではないかな。例えば今話題の市内でワイン醸造を始めた方や、最近全国的に知名度が向上しているレストランなどの食品残さを家畜の飼料化する企業など、新しい視点を入れてみても面白いかもしれない。

(中邨委員長)

・この地域には大学が非常に多い。そこで地域づくり大学の提案で、「相模原と持続可能なまちづくり」というテーマで、大学ゼミ単位の公募企画のコンテストを実施してはどうか。コンテストで優秀だったものを「相模原を知る」の講座に入れられると良い。

・ChatGPTなどの生成AI、感染症対策、前述の公募企画、この3点をキーワードとする等、是非様々な方に興味を持っていただける講座にして頂きたい。

閉 会

以 上

さがみはら地域づくり大学運営委員会委員名簿

(令和6年2月27日開催)

	氏名	現職	備考	出欠
1	中邨 章	日本協働政策学会 名誉理事長 (地域づくり大学の学長)	委員長	出席
2	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 会長 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)		出席
3	水澤 弘子	特定非営利活動法人さがみはら市民会議 理事 (本市における地域活動団体及び市民活動団体の関係者)	副委員長	出席
4	齊藤 ゆか	神奈川大学 教授 (講座の各分野における関係者)		出席
5	榎本 好二	市民局長 (市職員)		出席